

平成23年度 第2回 太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し（平成24年1月～6月）のポイント

海況

潮岬以東の黒潮は、4月前半まではN型（※1）基調で推移し、4月後半以降はB・C型（※1）となる。
沿岸水温は、室戸岬以西が「平年並」（※2）～「低め」、熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域が「平年並」～「やや低め」で暖水波及時に「高め」、鹿島灘～常磐南部海域が「平年並」～「やや低め」で推移する。

※1 N型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯33度以北）

B型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯32度以北かつ33度以南）

C型：非大蛇行離岸流路

※2 平年並＝平年値±0.5℃程度、高め＝平年値+1.5℃程度

やや低め＝平年値-1.0℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

漁況（来遊量予測）

マサバ・ゴマサバ

3歳魚主体に前年並か上回る海域が多い。

マアジ

前年並か上回る海域が多いが低水準。

マイワシ

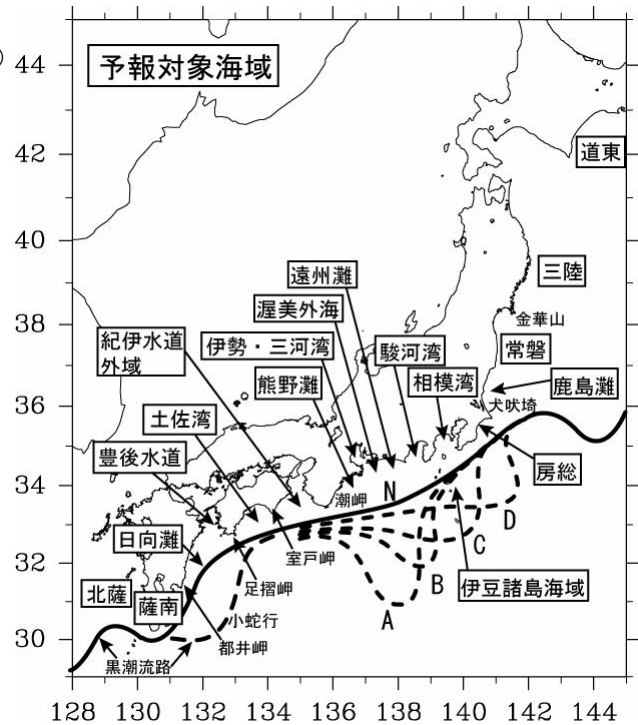
前年を上回る海域が多い。

カタクチイワシ

前年並か上回る海域が多い。

ウルメイワシ

土佐湾以西では前年並か上回るが、
紀伊水道以東では前年並か下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、内海

電話：03-3502-8111（内線6800）、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

（予報の詳細についてのお問い合わせ先）

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

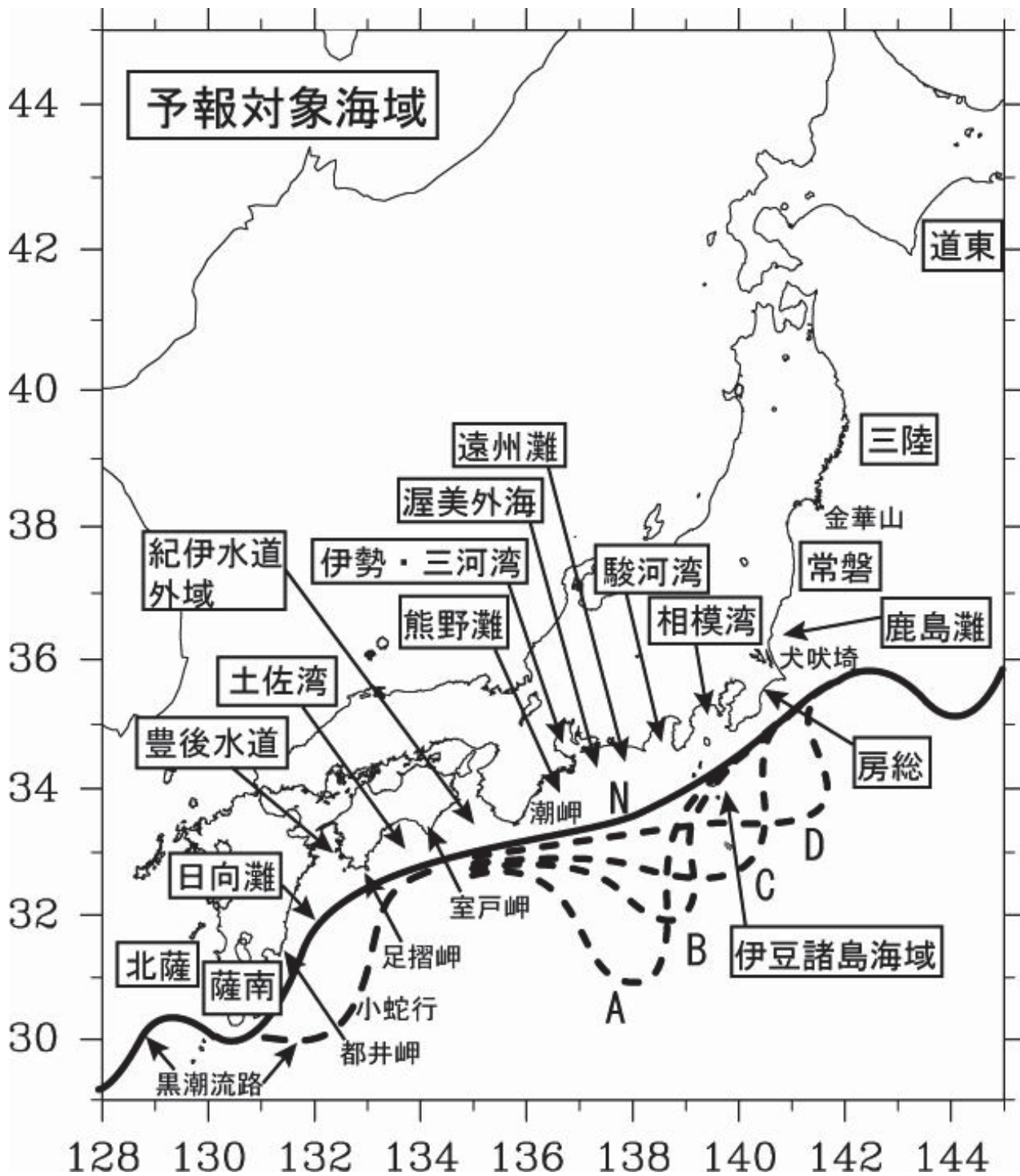
担当：市橋、生田

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



中央ブロック海況予報

今後の見通し（2012（平成24）年1月～6月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと。）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、3月までは小蛇行が持続するため離岸傾向で推移する。3月～4月に小蛇行が東進し、4月以降は接岸傾向となる。
- ・足摺岬沖～室戸岬沖では、12月後半～1月前半に小蛇行の一部が東進するのに伴い離岸傾向となる。
- ・足摺岬沖～室戸岬沖では、3月～4月に都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い離岸傾向になる。小蛇行が通過した後は、接岸傾向となる。
- ・潮岬沖では、1月～3月は短期的な変動を伴いながらも、接岸基調で推移する。4月以降は離岸傾向となる。

◎潮岬以東

- ・1月～2月に一時的にB・C型となるものの4月前半まではN型基調で推移する。4月後半以降はB・C型となる。
- ・野島崎沖では、接岸傾向で推移し、離接岸変動は小さい。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って沿岸域へ一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、1月～4月前半は、概ね冷水域に入るが、黒潮流路の変動に伴い、内側域への一時的な暖水波及がある。4月後半以降にB型となった時は、暖水が広く波及する。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね黒潮より南の暖水域に入る。黒潮流路の変動に伴い、冷水域に入ることがある。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・沿岸域へ暖水や冷水が波及することがある。

(4) 沿岸水温

- ・室戸岬以西は「平年並」～「低め」で推移する。
- ・紀伊水道外域～潮岬沖は、4月前半までは「平年並」～「高め」、4月後半以降は「平年並」～「低め」となる。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「やや低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。黒潮流路の変動に伴い、「低め」となることがある。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「やや低め」で推移する。ただし、冷水や暖水波及時には大きく変化する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、

（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過（2011年8月～12月）（注：経過は図2を参照のこと。）

(1) 黒潮

- ・9月下旬、N型流路から小規模なB型流路となった。
- ・10月中旬、小規模なC型を経て、N型流路となった。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・7月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。
- ・8月、黒潮北縁は離岸傾向で推移した。
- ・9月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。
- ・10月、黒潮北縁は接岸傾向で推移した。
- ・11月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

◎潮岬以西

- ・8月以降、都井岬沖には小蛇行が存在し、離岸傾向で推移した。8月上旬、10月下旬、11月中旬に、小蛇行の一部が東進した。
- ・7月～11月上旬、足摺岬～潮岬では概ね接岸傾向であったが、小蛇行の東進に伴い一時的に離岸した。
- ・11月下旬、足摺岬～室戸岬でやや離岸した。

◎潮岬以東

- ・8月上旬～中旬、駿河湾～相模湾～伊豆諸島北部海域に暖水が波及した。
- ・9月、駿河湾～相模湾～伊豆諸島北部海域へ暖水波及がみられた。
- ・9月下旬、熊野灘へ暖水波及がみられた。
- ・9月下旬に遠州灘沖に冷水域が形成され、10月上旬～中旬に伊豆諸島を通過した。
- ・11月上旬～中旬、遠州灘～相模湾～伊豆諸島北部海域へ暖水波及がみられた。
- ・11月下旬～12月上旬、駿河湾～相模湾～伊豆諸島北部海域に暖水が波及した。
- ・8月～12月、伊豆諸島南部海域は概ね黒潮より南の暖水域に位置していた。
- ・野島埼沖では、黒潮が10月中旬を除いて接岸傾向で推移した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・8月、暖水の影響がみられた。
- ・9月上旬、常磐南部沖合海域に冷水の波及がみられた。
- ・9月下旬、台風通過後に鹿島灘の表層を中心に大きく降温した。
- ・10月～11月、概ね低温傾向で推移した。

現況 (2011年12月16日現在)

(1) 黒潮

- ・ 都井岬沖に小蛇行が存在している。
- ・ N型流路で推移している。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎ 薩南海域

- ・ 黒潮北縁は接岸している。

◎ 潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬で「著しく離岸」、足摺岬～室戸岬で「やや離岸」している。
- ・ 黒潮は、潮岬で「接岸」している。

◎ 潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘～相模湾は概ね冷水域に入っている。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、黒潮の南に位置している。
- ・ 黒潮は、野島埼沖でやや接岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 鹿島灘沖合域に暖水が波及している。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

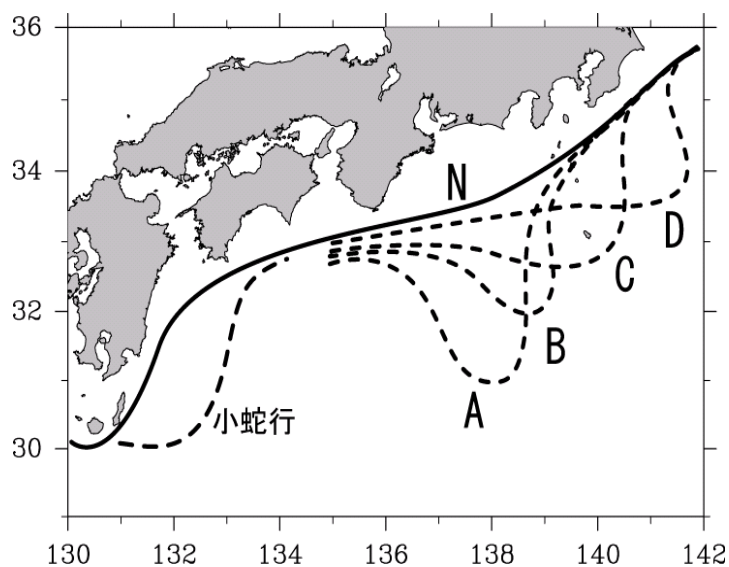


図1 黒潮流型の分類

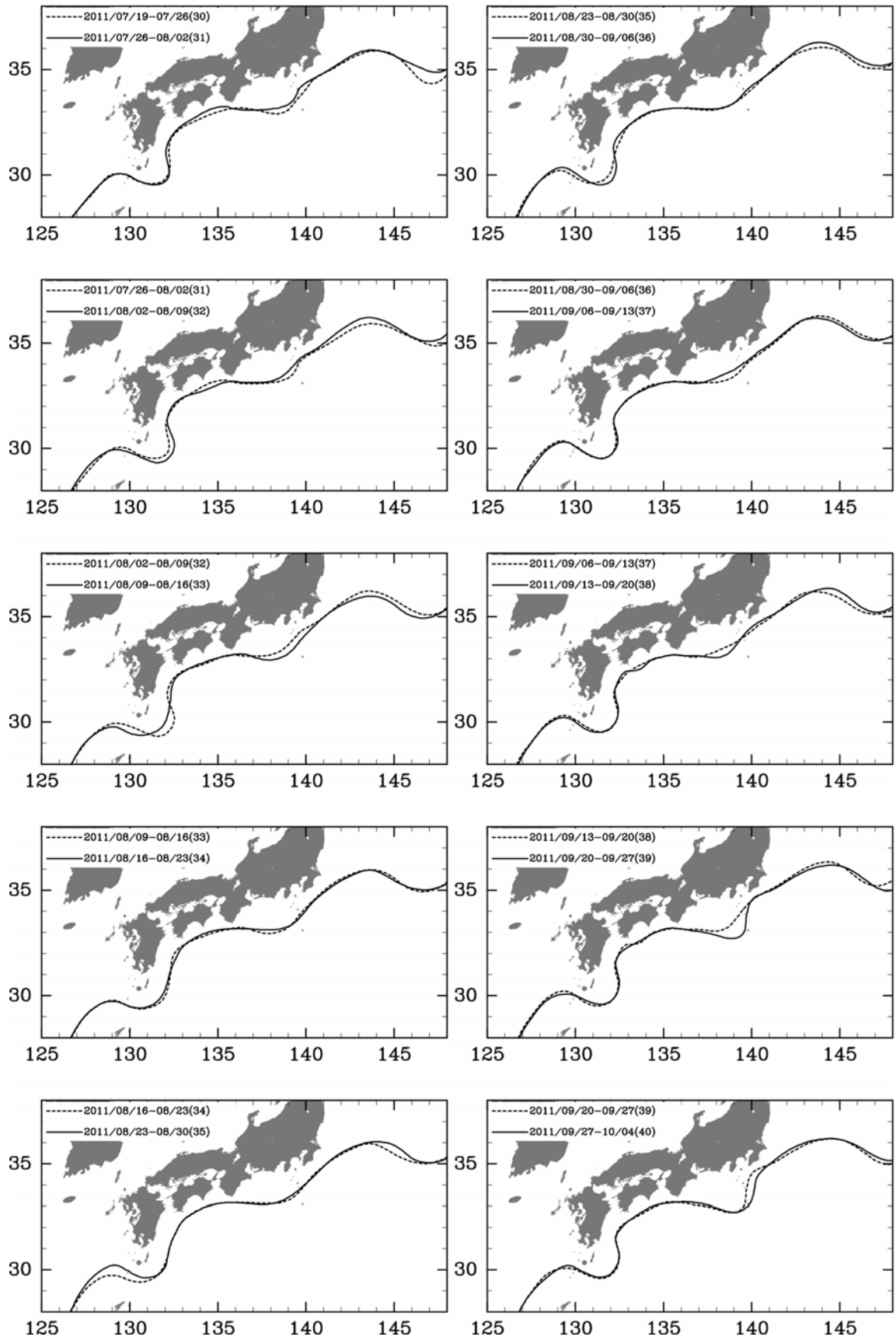


図2 黒潮流軸のパターン

(2011年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

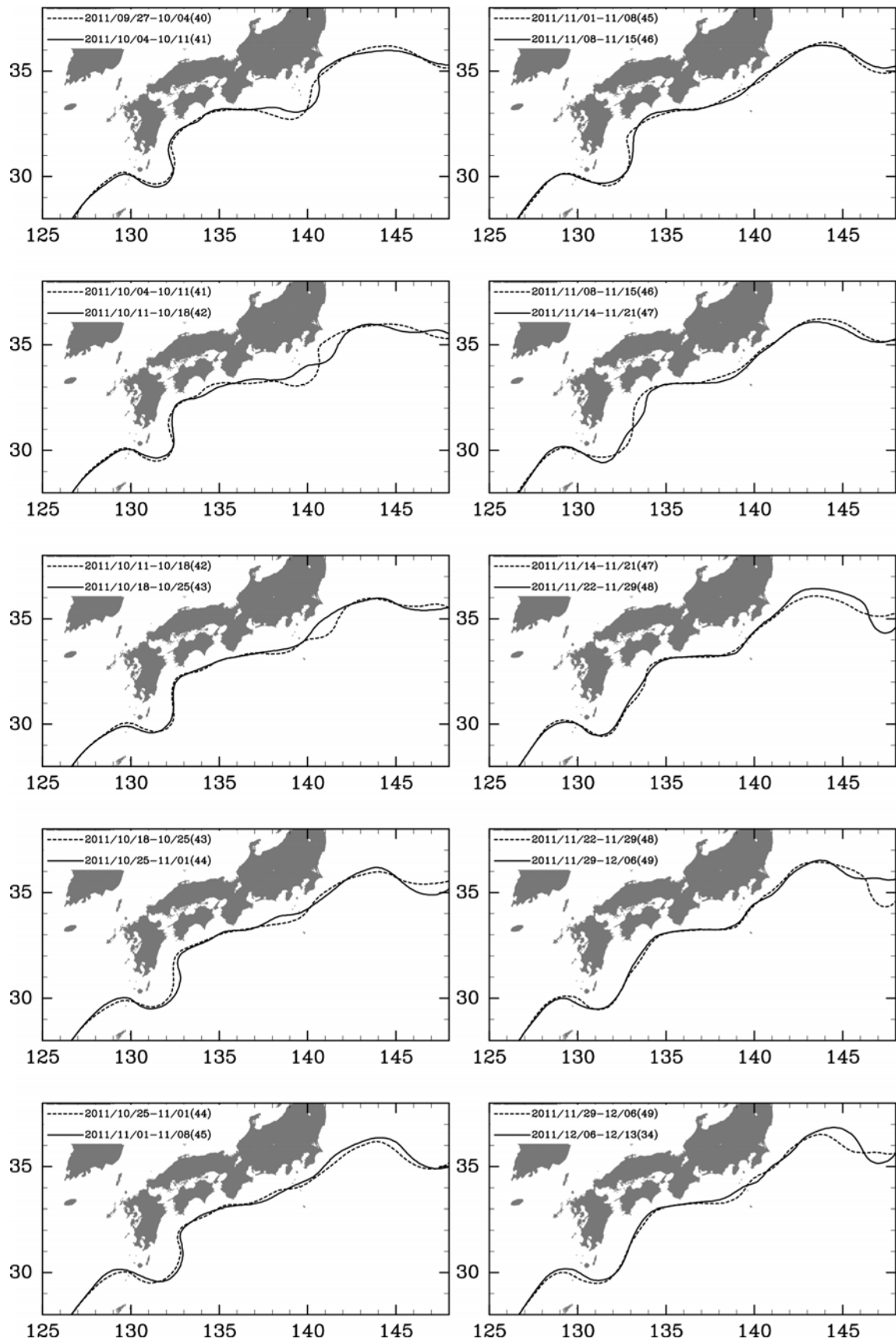


図2 (続き) 黒潮流軸のパターン

(2011年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年1月～6月）

対象海域：薩南～豊後水道、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい

対象魚群：1歳魚（2011（平成23）年級群）、2歳魚（2010（平成22）年級群）、3歳魚（2009（平成21）年級群）、4歳（2008（平成20）年級群）以上。年初に加齢。魚体は尾叉長。

1. 薩南～豊後水道（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は多かった前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては、前年並～下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南～日向灘では31cm～36cm（3歳魚）主体。豊後水道では23cm～28cm（1歳魚）主体に33cm以上（3歳魚主体）も漁獲される。

2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては前年並～上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、32cm～36cm（3歳魚）が主体。マサバは混獲程度。

3. 熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバは少ない。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は前年を下回る。サバ類全体としては前年並～上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、32cm～36cm（3歳魚）主体に36cm以上（4歳以上）、29cm以下（1歳魚）も漁獲される。マサバは31cm～37cm（3歳魚）および30cm以下（1、2歳魚）が漁獲される。

4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

(1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を大きく上回る。4歳魚は前年並。マサバとしては前年並～上回る。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。ゴマサバとしては前年を下回る。サバ類全体としては前年並。

(2) 漁期・漁場：伊豆諸島北部海域を中心にマサバ主体の漁場が形成されるが、本格的な形成は遅れる。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となるが、マサバに混獲される場合は伊豆諸島北部海域でも漁場が形成される。

(3) 魚体：マサバは31cm～37cm（3歳魚）主体に30cm以下（2、1歳魚）や37cm以上（4歳以上）も漁獲される。ゴマサバは30cm～34cm（3歳魚）主体に24cm～31cm（1、2歳魚）も漁獲される。34cm以上（4歳以上）も混じる。

5. 犬吠～三陸海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。マサバとしては前年を上回る。ゴマサバは前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網では犬吠海域～鹿島灘で期を通じて漁獲される。三陸海域の定置網では6月以降漁獲される。

(3) 魚体：マサバは28cm～36cm（3、2歳魚）と25cm前後（1歳魚）が漁獲される。ゴマサバは27cm～36cm（3、2歳魚）と25cm前後（1歳魚）が漁獲される。

漁況の経過（2011年7月～12月）および見通し（2012年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

(1) マサバ

資源量は1990年代以降低い水準にあるが、加入量水準の高い2004、2007および2009年級群の発生により増加してきている。

2007年級群（5歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2008年級群（4歳魚）は、9月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が6億尾であり、加入量水準は低い。これまでの漁況経過からみても資源量は少ない。

2009年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が21億尾であり、近年では2004年級群に次ぐ高い水準と推定され、これまでの各地漁業の漁獲物の主体となっている。6月～10月の三陸～道東海域の流し網調査（釧路水試）におけるCPUEは2004年級群の2歳時と同程度であり、1994年以降で最も高い水準であった。

9月～10月の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）でも漁獲が見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。

2010年級群（2歳魚）は、これまでの各地漁業で2009年級群とともに主な漁獲対象となっている。三陸～道東流し網調査（釧路水試）のCPUEは7.4尾/回であり、1994年以降で6番目に高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）でも漁獲が多く見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。加入尾数は近年において比較的高い水準の16億尾と推定されているが、最近年のため不確実性は高い。

2011年級群（1歳魚）は、これまでのところまき網漁業ではまとまった漁獲はみられていない。9月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入尾数を8億尾と推定した。三陸～道東流し網調査（釧路水試）のCPUEは0.3尾/回であり、1994年以降での最低水準であった。秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）の出現率・CPUEは19.2%・3.0尾/網であり、2001年以降で3番目に低い値であった。以上の情報から、2011年級群の加入量水準は近年の平均を下回る水準と判断される。

(2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半以降高い水準にある。0歳時に黒潮親潮移行域を回遊して加入する群が資源の主な部分を占めるようになっている。

2008年級群（4歳魚）は、9月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が5億尾であり、加入量水準は低い。これまでの漁況経過からみても残存資源量は少ない。

2009年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が18億尾であり、近年では2004年級群に次ぐ高い水準と推定され、これまでの各地漁業の漁獲物の主体となっている。三陸～道東流し網調査（釧路水試）におけるCPUEは1994年以降で最も高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）でも漁獲が見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。

2010年級群（2歳魚）は、これまでの各地漁業で2009年級群とともに漁獲対象となっている。三陸～道東流し網調査（釧路水試）のCPUEは11.3尾/回であり、1994年以降で5番目に高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）でも漁獲が多く見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。静岡県棒受網CPUEによる加入量指数（静岡水技研）は7.9であり、2008年級群（19.3）、2009年級群（71.1）を下回った。最近年のため不確実性は高いが、加入尾数は比較的高い水準の10億尾と推定されている。

2011年級群（1歳魚）は、これまでの各地漁業では、海域によっては漁獲がみられている。9月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入尾数を8億尾と推定した。三陸～道東流し網調査（釧路水試）のCPUEは1.5尾/回であり、1994年以降でも低い水準であった。秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）の出現率・平均CPUEは23.1%・8.4尾/網であり、2009年（58.3%・122.1尾/網）を下回

ったが、2010年(21.7%・6.5尾/網)をやや上回り、2001年以降の同調査で中位程度であった。静岡県棒受網CPUEによる8月～11月における加入量指数(静岡水技研)は3.5であり、同期の2009年級群(33.0)を大きく下回り、2010年級群(3.2)と同程度であった。以上の情報から、2011年級群の加入量水準は近年における中位水準と判断される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述の通り、これまで得られている情報から、1歳魚(2011年級群)は近年の平均を下回る加入量水準と判断され、来遊量は前年を下回る。2歳魚(2010年級群)は近年において比較的高い加入量水準であり、来遊量は、多かった前年2歳魚(2009年級群)を下回るが、漁獲対象となる。3歳魚(2009年級群)は近年では高い加入量水準であり、来遊量は前年を上回り、漁獲の主体となる。4歳魚(2008年級群)および5歳(2007年級群)以上の来遊量は少ない。マサバ全体としては前年並かやや上回る。なお、2、3歳魚については、秋季の犬吠以北海域では資源評価から想定されるような顕著な漁獲がみられなかったことから、今後の来遊動向を注視する必要がある。伊豆諸島より西の海域では、来遊量は少なく、サバ類に占めるマサバの割合は低い。

(2) 漁期・漁場、魚体

まき網漁場は、7月上旬までは犬吠海域、7月下旬～10月中旬は三陸北部海域、10月下旬以降は三陸北部および鹿島灘～犬吠海域に形成されている。7月～11月の犬吠以北海域におけるまき網による漁獲量は2.0万トンと前年同期(5.2万トン)を下回った。千葉県以北の定置網による漁獲量は0.1万トンと前年同期(1.0万トン)を下回った。伊豆諸島以西の海域ではゴマサバに混獲される程度で漁獲量0.6千トンであった(漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値)。

犬吠以北海域では、本予測期間は鹿島灘～犬吠海域が主漁場となると考えられる。伊豆諸島周辺海域では、黒潮流路変動に強く影響されるが、黒潮流路は1月～4月前半はN型基調で推移し、4月後半以降はB・C型となると予測されている。野島埼では、接岸傾向で推移し、離接岸変動は小さい、と予測されており、房総半島への接岸傾向、親潮の弱勢とあわせて考えると、伊豆諸島海域への南下は遅れ、本格的な集群と漁場形成は遅れる可能性が高い。北部海域(大室出しから利島、ヒョウタン瀬)を中心に漁場が形成されるが、漁期中盤には三本を含む三宅島周辺海域や銭洲海域でも漁場形成の可能性もある。伊豆諸島より西の海域ではマサバ主体の漁場形成は期待できず、ゴマサバに混獲される程度となる。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1歳魚(2011年級群):27cm以下、2歳魚(2010年級群):28cm～33cm、3歳魚(2009年級群):31cm～37cm、4歳魚(2008年級群):35cm～38cm、5歳(2007年級群)以上:39cm以上。

2) ゴマサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述の通り、これまで得られている情報から、1歳魚(2011年級群)は近年における中位の加入量水準と判断されるが、来遊量は前年を上回る海域が多い。2歳魚(2010年級群)は近年において比較的高い加入量水準であり、来遊量は、多かった前年2歳魚(2009年級群)を下回るが、漁獲対象となる。3歳魚(2009年級群)は近年では高い加入量水準であり、来遊量は前年を上回り、漁獲の主体となる。4歳(2008年級群)以上は残存資源量が少なくなっており、来遊量は少ない。ゴマサバ全体としては前年並かやや下回る。

(2) 漁期・漁場、魚体

7月～11月の漁況は、薩南～紀伊水道外域の各海域では、主に2歳魚（2009年級群）を対象に前年並～下回った。熊野灘では、2歳魚主体に0歳魚（2011年級群）も対象に前年を下回った。駿河湾周辺のまき網では2歳魚主体に3、1歳魚も対象に前年を下回った。伊豆諸島周辺海域では2、1歳魚主体に前年を下回った。犬吠以北海域のまき網では、2、1歳魚主体にマサバと混獲され、漁獲量はマサバを上回った。いずれの海域でも2歳魚は前年を上回った。7月～11月の漁獲量は、薩南～紀伊水道外域は2.4万トン（前年同期実績2.9万トン）、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は2.1万トン（同4.6万トン）、犬吠以北海域はまき網が4.2万トン（同4.0万トン）、定置網などが0.5万トン（同1.8万トン）であった（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）。

今期における各地の漁期・漁場および魚体は、薩南～日向灘では3歳魚（2009年級群）主体に、豊後水道では1歳魚（2011年級群）主体に3歳魚も対象に、紀伊水道外域～熊野灘では3歳魚主体に1、2歳魚も対象に、期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では、3歳魚主体に1、2歳魚も対象に、期を通じて近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に漁場が形成される。犬吠以北海域では、1～3歳魚が犬吠海域～鹿島灘で漁獲される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1歳魚（2011年級群）：27cm以下、2歳魚（2010年級群）：27cm～33cm、3歳魚（2009年級群）：31cm～36cm、4歳（2008年級群）以上：35cm以上。

マアジ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年1月～6月）

対象海域：北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業：まき網、定置網

対象魚群：0歳魚（2012（平成24）年級群）、1歳魚（2011（平成23）年級群）、2歳魚（2010（平成22）年級群）、3歳魚（2009（平成21）年級群）。年初に加齢。魚体は尾叉長。

1. 北薩～土佐湾（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩・薩南海域では1歳魚主体に前年を下回る。日向灘では1歳魚主体に前年並か上回る。豊後水道南部西側、豊後水道東側ならびに宿毛湾・土佐湾では、主体となる1歳魚は前年を上回る。いずれも、期の後半には0歳魚が加わる。

(2) 魚体：15cm～22cmの1歳魚が主体で、期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。北薩・薩南の2歳魚は22cm～26cm。

2. 紀伊水道外域～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：紀伊水道外域西部では1歳魚主体、東部では2歳魚と3歳魚主体に前年並。熊野灘では1歳魚主体に前年を上回る。

(2) 魚体：15cm～22cmの1歳魚主体。紀伊水道外域東部では25cm～32cmの2歳魚と3歳魚主体。

3. 相模湾（定置網）

(1) 来遊量：1歳魚主体に前年を上回る。

(2) 魚体：15～22cmの1歳魚主体。

漁況の経過（2011年8月～11月）および見通し（2012年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

資源量は1980年代後半に増加し、1990年～2001年には概ね12万～16万トンの高水準であった。その後は減少傾向に転じ、2006年以降は10万トンを下回っている。現在の水準としては中位、近年（5年間）における動向は減少と判断された。

2009年級群（3歳魚）並びに2010年級群（2歳魚）は、それぞれ前期の2歳魚、1歳魚としての漁況は低調に推移したことから、残存資源量の水準も低いと推察される。なお、紀伊水道外域東部においては、前期に引き続き漁獲の主体になると考えられる。

2011年級群（1歳魚）は、4月～6月の日向灘南部定置網における0歳魚漁獲量（宮崎水試）としては2010年級群を下回ったが、その他の海域における加入量指標値では上回った。前期の漁況は全体としては低調であったが、本年級群を主体として一時的に好転した海域も見られた。今期においても引き続き、本年級群が漁獲の主体になると考えられる。

2012年級群（0歳魚）は、今期の後半に漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られていない。

2. 来遊量、漁期・漁場

来遊量については、海域ごとに、前期の漁況に基づき予測した。なお、本魚種は、予測期間を通じて漁獲対象となる。

(1) 北薩～土佐湾

北薩・薩南海域では、今期の1歳魚の来遊量は、前期の0歳魚漁獲量から、近年で最も少ないと考えられる。今期の2歳魚も、前期の1歳魚として低調な漁況が続いたことから、前年を下回ると考えられる。全体として前年を下回ると予測される。

日向灘では、1月～5月の漁獲量(1歳魚主体)は、前年7月～12月の漁獲量(0歳魚主体)により予測され、今期は1歳魚主体に前年並か上回ると考えられる。

豊後水道南部西側では、前期の0歳魚を主体としたまき網漁獲量が前年を上回ったことから、今期は1歳魚主体に前年を上回ると予測される。

豊後水道東部では、前期の7月～9月における0歳魚の漁獲量が前年を上回ったことから、今期の1歳魚は前年を上回ると予測される。親魚量の減少傾向により、今期の0歳魚とあわせた全体としては、前年並と予測される。

宿毛湾・土佐湾では、まき網、定置網とも前期の漁獲量は0歳魚主体に前年を上回ったことから、今期は1歳魚主体に前年を上回ると予測される。

(2) 紀伊水道外域～熊野灘

紀伊水道外域西部では、今期の1歳魚、2歳魚とも年級群豊度としては高くないと推察されるが、8月以降の漁獲量の傾向から、全体として前年並と予測される。

紀伊水道外域東部では、2そうまき網において今期も2歳魚と3歳魚が主体と予測される。1月～6月の2そうまき網での漁獲量は、前年1月～10月の漁獲量により予測され、今期は前年並に低調と考えられる。

熊野灘では、前期において0歳魚としてまとめて漁獲された2011年級群は、今期も引き続き来遊すると見込まれることから、極めて低水準であった前年を上回ると予測される。

(3) 相模湾

伊豆東岸並びに西湘地区とも1歳魚主体となり、その来遊量は、前年の0歳魚漁況と翌年1月～6月の1歳魚漁況の関係から、前年を上回ると予測される。

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2012（平成24）年級群）、1歳魚（2011（平成23）年級群）、2歳魚（2010（平成22）年級群）、3歳魚（2009（平成21）年級群）、4歳魚（2008（平成20）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：紀伊水道外域東部では前年を下回る。それ以外の海域では前年並か上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：紀伊水道外域以西では、漁期前半は16cm～19cmの1歳魚が主体、期の後半は5cm～12cmの0歳魚が主体となる。熊野灘では14cm～20cmの1歳魚と18cm以上の2歳以上が主体となる。

2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾および相模湾では前年を上回る。駿河湾では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：伊勢・三河湾では期の後半に漁獲される。駿河湾、相模湾では概ね期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～20cmの2歳魚が混じる。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：期を通じて鹿島灘～房総海域にまき網漁場が形成される。常磐以北ならびに道東海域ではまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部の定置網については5月以降漁獲がある。

(3) 魚体：1、2歳魚を主体に3歳以上がわずかに混じる。1歳魚は11cm～17cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳以上は20cm～23cm。

漁況の経過（2011年8月～11月）および見通し（2012年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2008年級群は、0歳魚時点での諸調査船調査結果ならびに低調な漁況経過から当初は低い豊度に留まるものと考えられていた。しかし、翌2009年漁期になると1歳魚として熊野灘以東の各海域において漁獲されるようになり、同年のマイワシ漁獲量を引き上げ、さらに2010年漁期には2009年級群とともに房総～常磐海域におけるまき網の好漁を支えた。この1、2歳魚時点での好漁に基づき、2008年級群は2000年級群に迫る高い豊度であったと推定された。前漁期においても被鱗体長21cm～22cmの3歳魚として房総周辺のまき網漁獲物に出現しているが、漁獲全体に占める割合はわずかで、残存資源量は少ないと思われる。

2009年級群は、0歳魚時点での諸調査船調査結果の多くにおいて高豊度である可能性が示唆された。漁業においても、同年級群が0歳魚であった2009年漁期中は低調に推移したものの、1歳魚となった2010年漁期には2008年級群と共に房総～常磐海域におけるまき網で漁獲され、2年連続の好漁を支えた。2011年漁期においても、被鱗体長19cm～22cmの2歳魚として房総周辺のまき網漁獲物に出現したものの、漁獲全体に占める割合は2割以下で、残存資源量は少ないと思われる。

2010年級群は、0歳魚の時点で実施された調査船調査の多くの結果において近年では極めて高い豊度である可能性が示唆された。漁業では、2010年秋以降の三陸・道東海域における漁獲物中に出現し始め、2010年11月下旬には八戸2そうまき網において0歳魚を主体とする漁場が形成された。さらに2011年2月より現在に至るまで房総海域におけるまき網で多獲され、その資源量指標値である

未成魚越冬群指数（千葉水総研）は5.36と、ここ10年間で最大の値に達するなど、近年では非常に豊度の高い年級である。

2011年級群は、産卵量（前年10月～6月）は119兆粒で、前年同期の75兆粒を上回った。一方、2011年6月の移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数は61.6で、2010年の1213.1を大きく下回ったものの、2009年（38.2）を上回った。また6月～7月の北西太平洋サンマ漁期前調査（東北水研）他によるマイワシ0歳魚の現存量推定値（19億尾）も、2010年（78.7億尾）を下回ったものの、2009年以前の値よりも一桁高い値を示した。さらに2011年9月～10月にかけて千島列島東方沖合にて実施した秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）におけるマイワシ0歳魚出現状況からは、2011年級群の加入豊度は2010年を下回るが近年では比較的高い程度と判断された。これら調査船調査の結果は、0歳魚（2011年級群）の加入量水準は、極めて高水準であった2010年級群を下回るものの、近年10年間の中では高い水準にあることを示唆している。また2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾より西の海域において0歳魚が前年を大きく上回るペースで漁獲され、各県の漁獲量を大きく引き上げ、10月以降の八戸2そうまき網で0歳魚がまとまって漁獲されるなど、広い範囲で2011年級群の加入・漁獲情報が得られている。正確な年級豊度の評価は今後の未成魚越冬群指数（千葉水総研）等の情報から判断することになるが、近年では比較的高い豊度にあると考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

来遊量：紀伊水道外域以西における今期前半の主たる漁獲対象は1歳魚である。紀伊水道外域西部以西の多くの海域において、前期の0歳魚の漁獲は前年を上回り好調に推移した。これらの海域においては今期年明け1歳魚としての来遊水準も高いと予測される。紀伊水道外域東部では、前期の0歳魚の漁獲が前年を下回ったことから、今期の年明け1歳魚の来遊量も前年を下回ると予測される。土佐湾以西では、期の後半になるにつれて0歳魚の加入が見られ、やがて漁獲の主体を占めるようになる。0歳魚の豊度についてはまだ情報が少なく予測が困難であるが、その産卵親魚の漁況などから前年並の来遊が予測される。熊野灘における漁獲対象は1歳魚と2歳魚であるが、それぞれ、前漁期0歳魚として特異的に多獲された2011年級群と、卓越年級群である2010年級にあたることから、不漁であった前年を上回る来遊が予測される。

漁期：期を通じて漁獲される。

魚体：紀伊水道外域以西では、体長16cm～19cmの1歳魚が漁期前半における漁獲の主体となり、期の後半には体長5cm～12cmの0歳魚が主体となる。熊野灘では、体長14cm～20cmの1歳魚と体長18cm以上の2歳魚以上の個体が共に漁獲の主体となる。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

来遊量：今期の伊勢・三河湾で漁獲の主体となるのは0歳魚である。近年の傾向から、今期中は高い漁獲は見込めないものの、全国的な資源動向や2011年11月に伊勢湾でマシラスの混獲が確認されたこと（同海域で11月にマシラスが混獲されたのは1993年以来初）などから、今期の来遊量が近年では高水準となる可能性もある。駿河湾、相模湾での今期の漁獲主体は1歳魚で、2歳魚がこれに混じる。また伊豆諸島周辺では2歳以上の個体が漁獲される。1歳魚は前漁期0歳魚として駿河湾、相模湾両海域で多獲されており、今期も高豊度の来遊が期待される。2歳魚は卓越年級群である2010年級であることから、海況次第では多く来遊し1歳魚とともに漁獲されることも考えられる。以上を総合すると、駿河湾における来遊量は好漁であった前年同期を下回るものの過去5年平均を上回り、相模湾における来遊量は前年を上回る。また伊豆諸島周辺への来遊は前年を上回る。

漁期・漁場：伊勢・三河湾では期の後半に漁獲される。駿河湾、相模湾南部（静岡県域）のまき網では2月～6月に漁獲される。相模湾北部（神奈川県域）では期を通じて漁獲される。伊豆諸島では2月～4月に棒受網、たもすくいに混獲される。

魚体：伊勢・三河湾では0歳魚主体。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～20cmの2歳魚が加わる。伊豆諸島周辺で漁獲されるのは19cm以上の2歳以上の個体。

(3)房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

来遊量：今期漁獲物の主体となるのは1歳魚と2歳魚である。1歳魚の豊度については、正確な判断は今後の未成魚越冬群としての出現状況次第であるが、2011年漁期の東京湾以西海域において0歳魚としてまとまった加入がみられたこと、また2011年9月～10月に実施された秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）においても、2010年級には至らないものの、近年では比較的高い豊度と判断されたこと、八戸2そうまき網でも漁獲されていることなどから、前年を下回るものの高い水準での来遊があると予測される。2歳魚は、本海域における2011年漁期の漁獲の主体として、2000年以降で最も多い漁獲量をもたらした高豊度の年級であり、今漁期においてもまだ豊富な残存資源量を維持し、前年同期の2歳魚を上回る来遊が予測される。以上を総合すると、好漁であった前年並の来遊量と予測される。

漁期・漁場：まき網漁場は、1月にはまとまって、2月以降は断続的に鹿島灘～房総海域に形成される。6月には再びまとまった漁場が形成される。常磐南部～仙台湾にかけての海域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。三陸海域ならびに道東海域では、まき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部の定置網においては、5月以降漁獲があるものの、設備上の制限から漁獲量は例年を下回る。

魚体：1歳魚と2歳魚が漁獲の主体となり、3歳以上がわずかに加わる。魚体は、1歳魚については1月～3月は11cm～14cm、4月～6月には14cm～17cm。2歳魚は17cm～21cm、3歳以上は20cm～23cmとなる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2012（平成24）年級群）、1歳魚（2011（平成23）年級群）、および2歳魚（2010（平成22）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩・薩南では前年を上回る。日向灘～土佐湾では前年並。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10cm～13cmの1歳魚および2歳魚。

2. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では不漁の前年並か上回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年を下回る。駿河湾～相模湾では前年並か上回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。伊勢・三河湾～渥美外海では4月以降に漁獲がある。

(3) 魚体：伊勢・三河湾～渥美外海では12cm以下の1歳魚主体。その他の海域では10cm～13cmの1歳魚および2歳魚主体。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並か上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は鹿島灘～房総海域で全期間。三陸の定置網は1月までおよび5月以降に漁獲がある。道東の定置網ではほとんど漁獲がない。

(3) 魚体：2月まで10cm～13cmの1歳魚および2歳魚、3月以降9cm～11cmの1歳魚主体。

漁況の経過（2011年8月～11月）および見通し（2012年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量推定値は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万トン～150万トンで推移している。2010（平成22）年の資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で横ばい傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布している。

2010年級群（2歳魚）は、前年11月～6月の漁期における常磐・房総海域の1歳魚の漁獲量は低水準で、前年の1歳魚（2009年級群）を下回ったが、操業日数を制限したことによる漁獲減の影響もあったと考えられる。2011年の北西太平洋サンマ漁期前調査（東北水研、6月～7月）および秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）においては、10cm以上のカタクチイワシの推定分布量はいずれも低水準であった。9月～10月の道東海域での漁獲（主に1歳魚）は前年・前々年で1万～2万トンで、2011年は3千トン台となり不漁であったが、漁場は3ヶ年ともごく沿岸域に限られた。以上の情報から、2010年級群は、最近10年の中では低水準であると考えられる。

2011年級群（1歳魚）は、春季のシラス漁況が概ね不漁で、一部の海域で中漁程度であった。2011年の北西太平洋サンマ漁期前調査（東北水研、6月～7月）においては10cm未満の未成魚として広く出現しており、推定分布量は2001年以降で上から4番目、秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）では、漁獲尾数が2001年以降で最高であった。一方、秋季の三陸～道東海域の流し網調査（釧路水試）や道東まき網の漁獲物では0歳魚は見られず、房総海域の秋季の2そうまき網は前年を上回ったが高水準ではなかった。鹿島灘・常磐海域の夏秋季のシラスは、漁獲量は低水準であったが、一部地区での操業自粛と、9月の台風の影響もあったと考えられる。以上の状況から、2011年級群は沖合に分布の中心があり、高～中水準であると考えられるが、沿岸への来遊については判断が難しい。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩・薩南海域では、周辺海域のシラス漁が過去10年平均を下回っているものの、来遊水準は低調であった前年を上回ると考えられる。日向灘～土佐湾では、房総海域以北の漁況から、今期は2歳魚（2010年級群）の来遊が期待できず、前年並と予測される。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(2) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘では、今期の漁獲対象は道東や常磐・房総海域から南下回遊する群が主体であり、道東における2歳魚（2010年級群）の漁況からは来遊が少ないと考えられるが、前年が不漁であったため、前年並か上回ると予測される。伊勢・三河湾～渥美外海では、例年、漁期は4月以降で、周辺海域由来の1歳魚が漁獲の主体であると考えられるが、当該海域における2011年のシラス漁況が中漁程度で、好漁であった前年を下回っているため、今期の1歳魚（2011年級群）の来遊も前年を下回ると予測される。駿河湾～相模湾では、常磐・房総の漁況と連動すると考えられ、前年並か上回ると予測される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

2011年秋季における道東のまき網では、2010年級群（漁獲時1歳魚）主体で約3.4千トンの漁獲があり、前年（22千トン）、前々年（10千トン）を下回った。9月～10月の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）では東経155度以東の親潮域にカタクチイワシが広く分布し、推定0歳魚（2011年級群）のCPUEは2001年以降で最大であったが、推定1歳魚（2010年級群）は低水準であった。

2010年級群（年明け2歳魚）について、2011年1月～6月の常磐・房総海域における漁獲量（千葉県、茨城県、福島県の計）は56千トンで、前年（88千トン）を下回り1999年以降で最低で、小型成魚（12cm未満、漁獲時1歳魚主体）としても前年を下回った。3月以降については操業日数の制限による漁獲量の減少の影響もあるが、2月までの漁況でも房総沿岸2そうまき網では前年を下回っていた。一方、1そうまき網では前年並の漁獲があった。常磐・房総海域では、資源水準が高ければ今期前半に2歳魚が来遊し漁獲の主体となるが、今期はこれまでの漁況および調査状況から、2歳魚（2010年級群）の来遊は前年の2歳魚（2009年級群）並の低水準と予測される。一方、2011年級群（年明け1歳魚）は、9月～10月の調査結

果から沖合に分布する資源が多いと推定されるが、道東や三陸～房総海域での漁獲状況から沿岸域で多いとは考えにくく、分布が沖合に偏っている可能性がある。沖合群の沿岸漁場への来遊については予測が難しい。以上の状況から、1歳魚、2歳魚を合わせると前年並か上回る来遊となると予測される。

三陸沿岸の定置網には1月まで南下群の一部が、また5月以降に常磐・房総海域からの北上群の一部が来遊し、例年であれば10cm～13cm台の1歳魚、2歳魚が漁獲される。予測の根拠は常磐・房総海域と同様で、来遊水準は前年並か上回ると考えられる。ただし、震災の影響により操業自粛や漁業設備の不足等の事態が継続しているため、三陸沿岸の定置網での漁獲は2010年以前の水準には及ばず、また、常磐・房総海域における漁期始めの漁場形成や漁獲動向は魚群の来遊状況と一致しない可能性がある。

道東の定置網では、今期の来遊は例年通りほとんど無いと考えられる。

ウルメイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年1月～6月）

対象海域：北薩～熊野灘

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、多鈎釣

対象魚群：0歳魚（2012（平成24）年級群）、1歳魚（2011（平成23）年級群）、2歳魚（2010（平成22）年級群）。期の後半に出現する0歳魚の予測は、現段階では困難。

- (1) 来遊量：北薩・薩南海域では前年並。日向灘では前年並か上回る。豊後水道南部、土佐湾では前年を上回る。紀伊水道外域西部では前年並。紀伊水道外域東部では前年を下回る。熊野灘では不漁であった前年並。
- (2) 漁期：全期間。
- (3) 魚体：南部海域では1歳魚以上が中心、期の後半には0歳魚が加入する。

漁況の経過（2011年8月～11月）および見通し（2012年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

産卵量（日向灘～潮岬沖、前年9月～8月）および漁獲量から資源状態を判断した。2011年度の産卵量は2010年度とほぼ同程度であった。1978年以降の産卵量の水準を高位・中位・低位に三分割すると、2011年度は中位にあると考えられた。また、最近5年間の産卵量は減少傾向にあると判断した。海域全体の漁獲量は、2009年では2.8万トンであったが、2010年では2万トンに減少した。一方で、2011年の漁獲量は過去最高となる見込みである。このように、産卵量と漁獲量の水準は一致しないが、漁獲以外の情報である産卵量を優先し、資源水準は「中位」、動向は「減少」と判断した。

2. 来遊量、漁期・漁場

今期は1歳魚（2011年級群）主体の漁況になることから、前期（0歳魚時）の漁況等に基づき来遊量を予測した。今期の後半には0歳魚（2012年級群）も漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られていない。

北薩・薩南海域では、前期8月以降に0歳魚（2011年級群）主体に好調な来遊があったことから、今期も1歳魚主体に非常に好調であった前年並と考えられる。

日向灘では、1月～5月に主体となる1歳魚（2011年級群）は、隣接海域の前期の漁況等から、前年並か上回ると予測される。

豊後水道南部西側では、2011年級群が漁獲の主体であった2011年4月～11月のまき網漁獲量は、2010年同期を大きく上回ったことから、2012年1月～3月でも1歳魚（2011年級群）の来遊量は多く、前年を上回ると考えられる。

豊後水道南部東側では、1歳魚を主体とする1月～3月の来遊水準は、前年10月～11月の南部まき網による0歳魚の漁獲量と相関があり、その関係式から前年を上回ると予測される。

土佐湾では、今期の主体となる 2011 年級群の前年における来遊量が多かったことから、前年を上回る来遊と考えられる。

紀伊水道外域西部では、標本漁協の漁獲量データから、来遊水準が好転してきたとは考えにくく、前年並と予測される。

紀伊水道外域東部では、2011 年 11 月までの棒受網の漁獲量から判断すると、2011 年級群の加入は前年を下回っている可能性が高い。従って、1 歳魚（主にまき網）は前年を下回ると予測される。

熊野灘では、ウルメイワシの冬季の漁獲量は少なく、前年夏秋季の漁獲動向を反映しないため、冬季には熊野灘から逸散すると考えられる。また、平成 23 年度の資源評価によると資源は減少傾向にあることから、来遊は散発的で、不漁であった前年並と予測した。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター 栽培資源研究所
福島県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	大阪府環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
静岡県水産技術研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	(取りまとめ機関)
三重県水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所